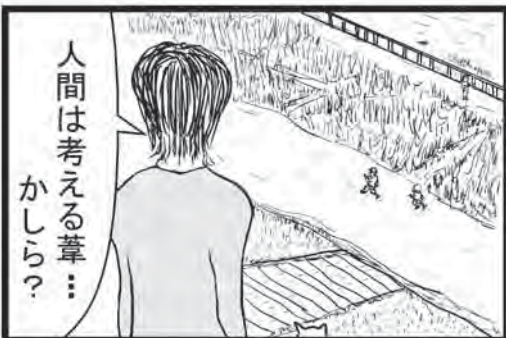
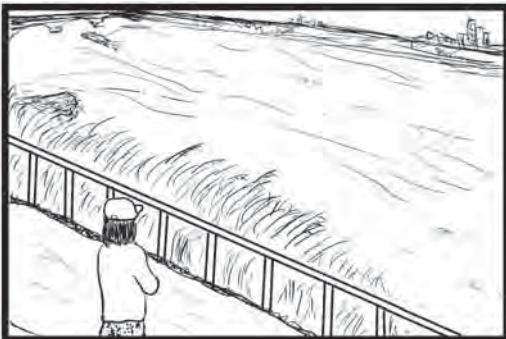


## 「草原三部合唱」 合同練習快調！ 11月23日（水・祝日）は、みんなで応援に行こう！！ この日の午前中さわうたはお休みです

さわごえ君 第12話  
「河川敷で」



人間は考える葦：  
かしら？



吾輩は  
猫である！



その人の名はソクラテス①

「ハイデガーってだれ？」  
「ハイ、そうデッカー！」

昔は「哲学青年」っていうのがいて格好いい男のイメージのひとつだったのに、今の時代に哲学は流行らないジャンルですね。うちの二男は選りにも選ってそんな道を選んでしまったんです。もう十数年前のことですが哲学科のある大学を探すのに苦労しました。それで、今は現代哲学の源流のようなハイデガーを研究していて、とにかく小難しい論文をたくさん書いて、「ハイデガーってなんですか？ ハイ、そうデッカー」でチンプンカンプン。それでも、彼の哲学への身入れようはただならぬものがあり、こっちはちっとは理解したいと思って「哲学がいろいろに分かる本はなんなの？」と聞いたところ、教えてくれたのが「ソクラテスだね。弟子のプラトンが書いたものだけれど『ソクラテスの弁明』が入門書として適当なんじゃない」そこで、ネット購入となりました。

人。今から二千五百年前といえば、日本はまだ縄文時代。縄文時代は一般には未開の原始時代のようにイメージされていますが、わたしはかなり文化の香りがする時代だったと思うのです。が、なにしろ木造文化で、文字もない時代だったから文化の広がりや継承はなされにくい状態、文明の発達も限られていました。そこへいくと、同じ時代、地球のあっち側には高度な文明と文化が開いていたんですね。「都市国家」とはコミュニケーションを基礎に置いた政府であり、そこには「民主主義」の仕組みもありました。すごいことはすごい。

**人は何のために生きるのかを考えた**

ところが、内情はそれほどでもない。都市国家間の戦争はしょっちゅうで、ソクラテスの生まれた頃になると社会は荒廃。力をふりまわして威張っている人たちが、自分は何んでも知っていると思込んで、それを自慢している人たちが、嘘のことをあたかも真実であるように屁理屈を言っていて、相手を黙らせる人がたくさんいて、そういう輩がのさばっていたのです。

そこへ登場するのがソクラテス。「人は何のために生きるのか」を突き詰めて考えた人の生き方は・・・（次号へ続く）

**朝霞混声合唱団 第11回定期演奏会 草原三部合唱発表！**  
11月23日（水・祝日）14:00～ 詳細別紙 当日のさわうたはお休み

**第5回 ゆるゆるサロン ゲスト：鈴木不尽子・渡辺宏美**  
11月30日（水）20:00～22:00 3,000円 詳細別紙

**プチ・ポイトレ 第5回 講師：斎藤敦子**  
11月29日（火）13:30～15:30 1,000円誰でも1回だけでもOK

**小島かおる+平野壮コンサート** 11月26日（土）19:30～ 別紙参照

＜さわうたカレンダー＞

- 太い数字＝さわうた
- 白抜き数字＝まっちゃんお休み
- .....＝ふりうた
- ＝プチコーラス
- ♡＝プチ・ポイトレ
- ◎＝ゆるゆるサロン
- ◇＝AMANEライブ

2011（平成23）年		11/6～12/3					
日	月	火	水	木	金	土	
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	1	2	3	

♠＝「草原三部合唱」初演 朝霞混声合唱団定期演奏会に参加 さわうたはお休み